

特別展示「洛中の江戸時代」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 展示状況

はじめに 京都市考古資料館では、令和7年度前期の特別展示「洛中の江戸時代」を開催しています(写真1)。

江戸時代の京都は、江戸・大坂とともに「三都」と称される大都市でした。しかし、その実態は意外なほど知られていません。

今回の特別展示では、最新の発掘調査や研究成果に基づき、江戸時代の京都の朝廷・公家、武家、寺社、そして庶民の実像、さらに災害について紹介します。

洛中の江戸時代 江戸時代の京都は、約 30 万人の人口を有する国内有数の都市でした。御所や公家の

屋敷、二条城や武家屋敷、数々の寺社とともに市街地の街路沿いには町屋が建ち並び、市井の人々が暮らしていました。朝廷・公家、武家、職人・商人をはじめとして様々な職業・階層の人々が京都の社会・経済・文化・芸術を支えたのです。

公家町の姿 京都御苑内で行われた京都迎賓館建設に伴う公家町遺跡の調査では、公家町の姿が明らかとなりました。宝永の大火(1708)後、防火帯を兼ねて設定された南北方向の街路である二階町通がみつかりました(写真2)。路面幅は約



写真2 公家町の二階町通(北から)

表1 江戸時代の主なできごとと京都の災害

安土桃山	江戸																	明治
	1603	1615	1635	1639	1682	1708	1716	1730	1758	1772	1788	1789	1830	1841	1853	1864	1867	1868
	徳川家康が 征夷大將軍となる	大坂夏の陣 「禁中並公家諸法度」の制定	寛永の大洪水	「鎖国」が完成する	天和の飢饉	宝永の大火	享保の改革	享保の大火（西陣焼け）	宝暦事件	田沼意次が老中となる	天明の大火	寛政の改革	文政京都地震 （死者280名、 負傷者1,300名）	天保の改革	ペリーが浦賀に現れる	元治の大火、蛤御門の変	大政奉還	明治維新

13mあり、両側には公家の屋敷が建ち並んでいました。

公家屋敷跡では京焼をはじめとする国産の焼物はもちろんのこと、中国・朝鮮・東南アジア、遠くはヨーロッパの陶磁器なども出土しています。他にもガラス製品が多数出土し、酒器であるチロリの蓋（写真3）や、雛道具（写真4）などは科学分析により国産のガラス製品と判明しました。

二条城と武家屋敷 徳川家康によって築かれた二条城では、寛永3年（1626）の後水尾天皇の行幸に備えて造られた行幸御殿の跡や、天明の大火（1788）で焼失した本丸御殿の礎石がみつかりました。

京都市中に点在する武家屋敷跡の調査では、石垣や堀、築地塀などの区画施設や建物・井戸などが多数みつかり、その構造が明らかになりつつあります。

寺町の調査 京都市分庁舎建設に伴う発掘調査では、妙満寺跡の伽藍と墓などの関連遺構がみつかりました。（写真5）

妙満寺は日蓮宗の寺院で、境内を描いた古絵図には本堂・日蓮上人を祀る祖師堂・庫裡・方丈などの建物が描かれています。江戸時代を通じて何度も焼失しましたが、その度に本堂や祖師堂は同じ位置に再建されたことがわかりました。

真鍮工房 京都御池中学校整備事業に伴う調査では、江戸時代前期の真鍮工房跡がみつかりました。溶解のための炉跡のほか、坩堝などの道具類が多数出土しました。周辺の調査でも鏡や金具の鋳型が出土していることから、このあたりでは金属製品の製造が盛んに行われていたことが明らかとなりました。

京都と災害 江戸時代の京都は、地震や洪水、火災といった幾多の災害に襲われました（表1）。

宝永の大火（1708）を契機として、京都では防火を目的とした瓦葺き

建物が普及します。しかし、天明の大火や元治の大火では焼失を免れることが出来ませんでした。市内の発掘調査では、火災後に大きな穴を掘って、道具類とともに大量の焼瓦を廃棄した土坑が様々な場所で見つかっています。災害による被害は甚大であったことが分かりますが、京都はその都度復興され、現在に至っているのです。

おわりに この展示をきっかけにあまり知られていなかった江戸時代の洛中の華やかな姿に思いをはせてみませんか。（青木麻佑花）



写真3 チロリ（酒器）の蓋
（公家町遺跡出土）



写真4 ガラス製雛道具
（公家町遺跡出土）



写真5 妙満寺祖師堂（北西から）